

ドキュメンタリー映画「戦争と対話」シリーズ鑑賞

上原 昇（2組）

JR 大宮駅西口に今年4月末オープンしたミニシアター「OttO（オット）」では、11月28日から1か月間、『戦後80年、内田也哉子ドキュメンタリーの旅「戦争と対話」』6作シリーズが、順々に公開されています。

信越放送（SBC）が1986年から2024年にかけて制作・放映したTVドキュメンタリー番組をベースにして、そのゆかりの地を旅人（ナビゲーター）の也哉子さんが訪ね、識者と対話を重ねるという内容の映画です。

第1作の無言館（上田市）については既に本HP（12月3日）で紹介しました。

その後12月に入り、第3作「再会～平壌への遠い道」、第5作「78年目の和解」、第6作「いのちと向き合う」を続けて鑑賞しました。

3作目の『再会～平壌への遠い道』は、旅人（也哉子）が松代町の大本営象山地下壕を訪ねる場面から始まります。

映画の中で紹介されるTV番組は1986年にSBCが制作したもので、太平洋戦争当時の植民地政策に翻弄された朝鮮人家族の苦悩（別離）と再会を描き、終わらない戦後の厳しい現実に向き合うシビアな内容です。

松代の地下壕掘削から80年、TV放映から40年経ちました。

旅人（也哉子）と語り合うのは、共同通信出身のジャーナリストの青木理氏（小諸市出身、野沢北高校卒）で、彼は記者時代、ソウルの特派員を経験しています。

<https://eiga.com/movie/104290/>

第5作目、『78年目の和解』は2024年、放映され、その年の日本民間放送連盟賞グランプリを受賞したTV番組、SBCスペシャル『サンダカン死の行進・遺族の軌跡』を題材にして作られています。

題名でもあるサンダカン死の行進は1945年、マレーシアのボルネオ島で起きた戦争の悲劇ですが、そこで何が行われたのかはあまり知られていません。

私もこの映画を通して、その詳細を知ることが出来ました。

SBCによる8年かけての、海外現地と日本の遺族・関係者への丁寧な取材それ自体が和解への取り組みであり、知ることの大切さ、知らないことの怖さを改めて感じさせる作品です。

今回、旅人（也哉子）は靖国神社を訪ね、戦争と平和について想いを馳せます。

和解について語り合う人は東京都杉並区長の岸本聰子さん。

<https://eiga.com/movie/104292/>

シリーズ最終となる第6作目は、2003年にSBCが制作したTV番組『いのちと向き合う～皆の宗・高橋住職の挑戦』を題材にしています。

この番組も日本民間放送連盟賞 TV エンターテインメント最優秀賞受賞作です。
本作のナレーションは旅人（也哉子）の母親で女優の故樹木希林が務めています。
番組では松本市浅間温泉の神宮寺住職、高橋卓志さん（松本深志高校卒）が登場して、ニューギニア・ビアク島での遺骨収集を追っています。
高橋住職は「何宗ですか？」と聞かれると「皆の宗です」と本音のジョークで答えています。
今回、旅人（也哉子）は沖縄を訪ね、宜野湾市にある佐喜眞美術館館長の佐喜眞道夫氏と戦争の悲惨さについて語り合います。同館には丸木位里、俊夫妻によって描かれた大作『沖縄戦の図』が展示されており、アートを通じて沖縄戦を伝えていく大切さを訴えています。
<https://eiga.com/movie/104293/>

本シリーズの企画は、SBC 制作の秀作 TV ドキュメンタリー番組を戦後 80 年の現代によりみがえらせるという意欲的なものです。
SNS の時代ですが、知らせたいことを伝えることも、それをきちんと知ることも意外と難しいことがよく分かります。
そんな難しい伝える役目を果たそうとしている「OttO」を、これからも、地元民としてサポートしていきたいと思います。



大宮のミニシアター「OttO」入口
(2025年12月27日 記)

以上